

# 思春期の「心の安全基地」

～アタッチメント理論から考える～

2021年10月17日(日)

9:30~15:30

ZOOM(オンライン形式)で行います

指定討論者

乾 吉佑 先生



専修大学 名誉教授

2009年日本精神分析学会 学会賞 受賞

2010年日本心理臨床学会 学会賞 受賞

著作：『医療心理学実践の手引き』（金剛出版）

『思春期・青年期の精神分析的アプローチ』（遠見書房）

監修：『生い立ちと業績から学ぶ精神分析入門』（創元社）

## ◇ 企画趣旨 ◇

このシンポジウムは、私たちの日常の心理臨床活動を検討し討論を深めていくことで、相互に交流しながら、思春期の心理臨床にとって大切な視点を共有していきたいというものである。

アタッチメント(愛着)理論は、不安や恐れが強くなったときに他者にくっつくことで安心・安全の感覚を維持回復する機能を持つ「他者とともにある安心感」の理論である。子どもたちはこうした仕組みによってもたらされる安全の感覚、つまり「心の安全基地 (secure base)」に支えられて、外の世界への探索や学習を安定して行い、また円滑な対人関係も構築していくと考えられている。

思春期の子どもたちは、取り付く島もない態度をとったかと思うと急に甘えてみたり、オンラインの世界に没頭し内に籠ったり、行動や症状で表現したりと、様々な様相を見せる。支援者として、困っている子どもたちに手を差し伸べたいと思うことも多くある。しかし、否定的な感情を強く向けられたり、手を差し伸べても手応えが得られなかったりすると、支援者の不安も活性化される。そんな彼らと私たちにとっての「心の安全基地」とはどのようなものだろうか。

そこで今回は、思春期の発達を「心の安全基地」という視点から考え、支援者にとっての自然な感覚で行っている実践の意義を再確認したり、本質的な支援とは何か、を考えることに役立てたい。

進め方としては、シンポジストの方々に、それぞれが日常臨床の中から、今回のテーマについて、事例を素材にしながら話題提供をして頂いて、議論していく。指定討論者には引き続き、乾 吉佑氏にお願いする。思春期心理臨床にとって大切なことがワクワクとしかも実感を持って感じられるシンポジウムにしていきたいと思う。思春期の子どもとかかわる心理臨床家のみならず、教育、医療、福祉など幅広い領域の方々のご参加を呼びかけたい。

参加対象者：臨床心理士、教員、医師、守秘義務を持つ専門家・援助者、大学院生

定員：80名

参加費：3,000円 (シンポジウム開催運営経費として)

参加申込み：メールにて①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④メールアドレス⑤所属および職種(大学院生は大学名)、臨床心理士の方は登録番号を明記の上、事務局まで申し込みください。併せて参加費のお振込みと守秘義務誓約書のご提出で申込み手続き完了となります。 ※申込み締切：10月12日(火)

振込先口座：広島銀行 銀山町支店(店番号002) 普通預金 口座番号 3086180

口座名 思春期シンポジウム実行委員会

共催：ひろしま思春期シンポジウム実行委員会/杉原心理相談室/ひろしま災害後のこころの支援勉強会

協賛：広島思春期問題研究会

※臨床心理士研修ポイント申請予定

# ひろしま思春期シンポジウム「思春期の心理臨床を考える⑩」プログラム

9:00 オンライン接続 開始

9:30 ミニレクチャー 「思春期の『心の安全基地』～アタッチメント理論から考える～」  
岡田 幸彦（トポスの森）

10:00 シンポジストから話題提供

司 会 岡田 幸彦（トポスの森）  
井上 房美（広島県立障害者療育支援センター）  
指定討論者 乾 吉佑先生（専修大学名誉教授）

話題提供者

- \* 学校現場の立場から 岡崎 彩（ホームスクーリングセンターメイプル）  
「思春期のアタッチメントとは～通信制高校でのかかわりから～」
- \* 小児科の立場から 湊崎 和範（広島西医療センター小児科）  
「小児科外来における「心の安全基地」に求められるもの」
- \* 精神科の立場から 井上 真一（瀬野川病院精神科）  
「アタッチメントから考える、思春期患者と治療者の関係について」
- \* 心理臨床の立場から 杉原 太郎（杉原心理相談室）  
「学校における安心の基地としての機能・役割を考える」

12:00 休憩

13:00 討議 「思春期の『心の安全基地』～アタッチメント理論から考える～」

司 会 岡田 幸彦 井上 房美  
指定討論者： 乾 吉佑先生 ・ シンポジスト ・ フロア

15:30 閉会

※研修時間内に「ひろしま災害後のこころの支援勉強会」から 10 分程度活動報告の時間を設ける予定です。

## シンポジウム開催経緯

- 2006年 9月 日本心理臨床学会にて、自主シンポジウム「思春期の心理臨床を考える①」を開催  
テーマ「不登校・発達障害児を対象とする活動集団療法から学ぶ」  
指定討論者 国際基督教大学教授 小谷 英文先生
- 2007年 10月 第2回「思春期の子の新しい対象関係の体験をどう援助するか」以下広島で開催  
指定討論者 専修大学文学部心理学科教授 乾 吉佑先生
- 2008年 10月 第3回「思春期と対象喪失」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2009年 10月 第4回「思春期と幼児化」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2010年 11月 第5回「思春期と構造化」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2011年 10月 第6回「思春期の“自分”と“自分がない”を考える」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2012年 10月 第7回「思春期とこころのスイッチング」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2013年 10月 第8回「思春期と現代の自己愛」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2014年 10月 第9回「思春期とコミュニケーションの障害」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2015年 11月 第10回「思春期における『幼児化』と『構造化』」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2016年 9月 第11回「思春期における『対象』と『かかわり』」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2017年 10月 第12回「こころのシャッターをおろす子どもたち」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2018年 11月 第13回「思春期と対象喪失」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2019年 11月 第14回「思春期における『甘えと自立』」 指定討論者 乾 吉佑先生
- 2021年 1月 第15回「現代の『思春期と中間領域』について考える」 指定討論者 乾 吉佑先生

[ひろしま思春期シンポジウム実行委員会]

実行委員長：橋本智恵美

実行委員：井上真一 井上房美 大原一祐 岡崎彩 岡田緑 岡田幸彦 杉原太郎 湊崎和範 宮川悦子

[ひろしま思春期シンポジウム事務局]

メイプル 広島市安佐南区緑井1丁目27-4-104 FAX (082)876-4332 E-mail shisyunkisymposium@yahoo.co.jp